

バスケットボールプレイヤーにおける理想像

ーポイントガードに着目してー

コーチング科学研究領域

5014A032-6 藤生 喜代美

研究指導教員：倉石 平 教授

【はじめに】

新聞や、競技の専門誌によって、ポイントガードの記事が掲載される場合、「司令塔」という表現を用いられることがある。それはバスケットのみならず、サッカーやバレー、アメリカンフットボールなどでも耳にする。ポイントガードについて、ドン・エディ（1983,p.280）は「どのポジションのプレイヤーにもそれぞれ役割があるが、その中で最も重要な役割を担っている」と述べている。

また、モーガン・ウットン（1994, p.85）は「理想的なポイントガードは、さながらコート上でコーチの役割を担うことになる」と述べている。これらのことから、ポイントガードというポジションが重要であることが分かる。

これまでに、バスケットボール競技に関する研究は、多面的多角的におこなわれてきた。ところが、学術的にポイントガードというポジションに着目した研究は、国内では今のところ報告されていない。「重要な役割を担っている」ポイントガードについて、具体的にどんな役割を果たすポジションなのか、「理想的なポイントガード」とはどんなプレイヤーなのかについて着目することは、ポイントガードのコーチングに有効であると考えられる。内山（2007）は、チームスポーツにおいて「個々のレベルが低ければ、集合体としてのチームも必然的に不十分にしか機能しない」と示唆している。ポイントガードのレベルを高くすることは、チームを十分に機能させることに繋がると考

えられる。

【目的】

本研究ではポイントガードの理想像をトップコーチの視点から明らかにし、女子のポイントガードに必要な要素を導き出すことを目的とした。そこから、ポイントガードにおけるコーチングの知見を得ることも目的とした。さらに、対象者の個別性を明らかにすることを目的とした。

【方法】

対象者の選定は、「熟達したコーチの直観的把握力とその形成過程については、コーチの学びの教科書になる（曾田,2014）」と言われていることから、熟練コーチを対象とした（表1）。

データ収集は、早稲田大学「人を対象とする研究に関する倫理委員会」の承認を得て、半構造化インタビューを採用し、グラウンデッド・セオリー・アプローチ（以下、GTAとする）を用いて共通性と個別性に着目して分析をおこなった。妥当性、信頼性の検証は、(1) 研究方法の明示 (2) メンバーチェック (3) 研究者による検証によって担保した。

表1. 対象者プロフィール

	性別	指導歴	代表カテゴリー	指導経験
A氏	男性	44年	A代表	実業団
B氏	男性	27年	A代表	大学・実業団
C氏	男性	44年	ジュニア代表	中学・高校
D氏	男性	32年	ジュニア代表	高校

【結果】

GTAを用いて分析をおこない、導き出された小カテゴリーを統合したところ、7つの中カテゴリ

一に分類された。その中カテゴリーからカテゴリー一関連図を作成した。(図1)

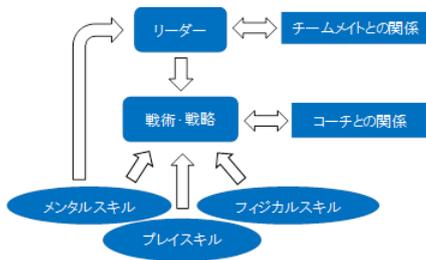


図1.ポイントガードの理想像
カテゴリー関連図

次に対象者の共通性に着目したところ、9つの共通要素が明らかとなった(表2)。また、個別性では、ポイントガードの理想像に求める要因の優先順位がばらける結果となった。

表2.ポイントガードの理想像に必要な要素

大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー
個人スキル	プレイスキル	・3ポイントシュート
		・得点力
チームスキル	戦術・戦略	・ドライブ
		・ボールマンプレッシャー
		・ディフェンスで相手のやりたいことをやらせない
		・状況判断
	リーダー	・球離れ
	チームとの関係	・コーチとの関係
		・コーチとの戦術・戦略の共通理解

【考察】

ポイントガードの理想像(図1)

ポイントガードは、メンタルスキルによってチームメイトに認められるリーダー的存在である。リーダーとして、コーチと一致した戦術・戦略を駆使する。その、戦術・戦略を実践する力をプレイスキル、メンタルスキル、フィジカルスキルが支える。個人スキル、チームスキル、チームとの関係を全て持ち合わせるとき、ポイントガードの理想像に近づけるといえるだろう。

共通性(表2)

4名から共通要素として抽出された、3ポイントシュート、得点力、ドライブ、ボールマンプレッシャーは、個人スキルであるため、練習で上達させることができる要素であろう。一方、チームスキルであるディフェンスで相手のやりたいことをやらせない、状況判断、球離れ、リーダーについ

ては、練習において習得が可能な場合と、ゲームにおいて習得が可能な場合といった、2つの場合があると言える。チームスキルであがった要素については、状況判断と切り離せないものであった。状況判断は、経験から得られた知識の影響を受ける(田中, 2004)とされているため、ゲームの経験をできる限り多く積ませることが望まれる。リーダーに関しても、リーダーシップ開発研究は進んでおり、「リーダー」は育成可能であると言われている(中村, 2010)。最後に、コーチとの戦術・戦略の共通理解をつくることを忘れてはならない。**個別性**

ポイントガードの理想像に求める要因の優先順位は、個別性が強くあらわれた。対象者の経歴から、どれも有効であり、裏を返せば、絶対的なモデルはないと言えよう。対象者の表現は、ポイントガードのコーチングにおいて有効な知見だと言えよう。

【結論】

女子のポイントガードの理想像に共通して必要な要素は、3ポイントシュート、得点力、ドライブ、ボールマンプレッシャー、ディフェンスで相手のやりたいことをやらせない、状況判断、球離れ、リーダー、コーチとの戦術・戦略の共通理解であった。これらのことから、ポイントガードとは、すべてのプレイヤーをまとめ、戦術・戦略を駆使するリーダーとなるプレイヤーのことと結論付けた。また、ポイントガードのコーチングにおいては、すべての要素は練習やトレーニングによって習得可能であることが明らかとなった。

また、ポイントガードのコーチングには、コーチがどのようなバスケットを理想とするのかによって、ポイントガードに求める役割は変わるという個別性があることが分かった。今後は、理想のバスケットと関連付けた研究や、男子のポイントガードに着目したもの、さらには、今回明らかになった要素についてのゲーム分析などが必要となると考えられる。